北海道合鴨水稲会　水かき通信　第 30 号
2010 年 6 月 29 日発行

北海道合鴨水稲会

水かき通信

もくじ

新代表世話人あいさつ	折坂義一	1
総会・講演会レポート	小板橋正裕	2
総会議事報告	小板橋正裕	4
合鴨アンケート結果報告	小板橋正裕・庄子太郎	10
事務局からのお知らせ		12

新代表世話人あいさつ

折坂義一

本年の農作業も始まり、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

春から低温が続き、４月に入っても雪が降るなど、雪解けも非常に遅れました。そのため農作業全般、例年になく遅れ、非常に苦労されていると思います。今後も低温が続き、夏は冷夏の予報も出ていますが、私たちはこれから天候が持ちなおし暖かくなることを祈り、豊穣の秋が迎えられることを期待して、この一年間を乗り越えたいものですね。

さて、このたび全国合鴨水稲会世話人・浅野氏の後任に私が選ばれましたので、ご報告いたします。

又、北海道合鴨水稲会の代表世話人にも再任されました。また 2 年間皆様にお世話になることになりました。よろしくお願いします。

本会もあと数年で設立20年の節目となりますが、ここ数年新規加入者がなく、会員数の減少もあり、少し寂しく思っているところです。これからは、農業者だけでなく、消費者も交えた形の、何か新しい試みも必要な時期に来ていると思われます。そのためにも、これからは、会員皆様方のたくさんの意見、アイデアが必要不可欠です。今後ますます本会が発展できるよう、ご協力をお願いします。

最後に、夏の圃場見学会には笑顔で再会できることを祈り、たくさんの参加者を期待しています。

第16回北海道合鴨水稲会総会・研修会報告

小板橋正裕（事務局）

さる2月27日、北海道合鴨水稲会のメイン行事2つのうちの片方、総会ならびに研修会を開催いたしました。その様子をご報告致します。

会場は滝川市「丸加高原伝習館」。当日は昨年の荒天とは打って変わって晴れ模様。路面も乾燥しており、ほぼ定時にご参集戴きました。皆様半年振りにお会い致しましたが、出席された方々はお変わりない様子。お元気そうで何よりです。

全くの余談ですが、我々事務局は早めに到着し、館内の食堂にて昼食をとりました。「鴨南蛮」や「合鴨ラーメン」です。合鴨水稲会ですから、合鴨の味も覚えておかなければ。おいしくいただきました。

●総会

皆さまのご協力により、総会は滞りなく進みました。選出された浅野さんを議長に、2009年度事業報告と決算、2010年度事業計画と予算の承認を戴きました。そして今年は世話人・代表世話人改選の年。各地区の新世話人をご紹介いただきました。決議事項や新世話人一覧など、詳しくは別途示します。ご覧ください。

また一般質疑では様々な御意見を頂戴しました。会員名簿を配布してほしい、寄付金会計の用途を教えてほしい、との御意見です。前者については早速配布することとし、後者は「設立20周年記念式典」にむけての準備資金とする、とお答えいたしました。

●研修会

総会終了後、休憩を挟んで研修会の開催です。「子どもたちに伝えよう食への関心ー日本型食生活を中心としてー」と題し、社団法人北海道栄養士会副会長・山際睦子さんに御講演いただきました。

山際さんは講演や講義に忙しく駆け回りながら、我々事務局の所属する研究室にも所属する大学院生なのです。そういうわけで、茶目っ気あふれる山際さんにはいつもお世話になっております。

さて、講演は現代の子どもの栄養事情や食生活の問題、いわゆる食育のお話を中心に進められました。結論、食育の究極の目的は「次世代の健全な大人を育てる」ということ。子どもの問題は大人の問題、大人が率先して正しい食生活を示していかねばならないのです。

農家でおられる会員の皆さんも、そして農業経済という学問に挑むわれわれも、子供たちに何を残すか・伝えるかということを考える好機となったのではないでしょうか。

●夜

講演会の後はお風呂タイム。皆さんビールが待ちきれないのでしょうか、私が長風呂なのでしょうか。私はあっという間に取り残され、一人で湯船につかっておりました。

そして宴会ですが、私は1次会の途中で寝ていたようです。皆さんとお話ししたかったのですが、体は正直なものです。ご迷惑をおかけしました。そういうわけで、楽しい夜の報告は叶わずじまいです。出席された方々は、熱い議論や楽しいお話、美味しいお酒の記憶を胸に留めていることと思います。

●おわりに

今回の総会・研修会（・宴会）を通して印象に残った言葉は、三島先生の乾杯の音頭です。「合鴨農家に留まらず、鴨肉の流通業者や加工業者、外食の方を会員として勧誘していこう」というお話でした。講演会では山際さんにいただいた食育のお話を踏まえ、合鴨農法の良さを伝えるためには第1次産業従事者以外のアプローチも必要、ということでしょう。あと数年で設立20周年を迎える本会、更なる発展を目指さねばならないと感じました。

第 16 回北海道合鴨水稲会総会・議事報告

小板橋　正裕（事務局）

2 月 27 日に行われた総会における議事内容を、配布致しました資料を交えながら報告致します。

出席者は事務局を含め 17 名と、多数の参加をいただきました。今回は浅野さんが議長に選出され、活発な議論が行われました。

総会次第

1. 開会の言葉　（事務局）
2. 代表世話人あいさつ　（折坂さん）
3. 議長選出
4. 2009 年度事業報告・決算報告　（事務局）
5. 監査報告
6. 2009 年度事業報告・決算報告に関する質疑応答
7. 2009 年度事業報告・決算報告の承認議決
8. 2010 年度事業計画・予算計画の提案　（事務局）
9. 2010 年度事業計画・予算計画に関する質疑応答
10. 2010 年度事業計画・予算計画の承認議決
11. 新世話人ならびに監査の選出・承認議決
12. 新世話人・監査あいさつ
13. 一般質疑
14. 議長解任
15. 事務局長あいさつ　（大原さん）
16. 閉会の言葉　（事務局）

2009 年度事業報告・決算報告

1.　第 15 回総会の開催

日　時：2009 年 2 月 21 日（土）

場　所：名寄市立大学（名寄市）

研修会：「地域を元気にするスモールビジネス――道北地域の取り組み」

講師：三島徳三氏（名寄市立大学副学長・道北地域研究所所長）
今井宏氏（エミュー生産者、下川町）
参加者：12 名

2.　圃場見学会の開催

日　時：2009 年 7 月 4 日（土）
担　当：道央地区
見学先：川本農場（北竜町）、黄倉農場（同）、中野ファーム（滝川市）
参加者：17 名

3.　世話人会の開催

日　時：2009 年 1 月 10 日
場　所：北海道大学農学部 3 階　農業経済学科会議室
議　題：総会に向けて

4.　合鴨水稲同時作の実施状況に関するアンケート調査の実施

発送数:22 通
返信数:10 通
回答率:46%

5.　会報「水かき通信」の発行

第 28 号の発行

発行日：2009 年 4 月 24 日
内　容：総会報告、全国フォーラム参加報告、合鴨水稲同時作の実施状況に関するアンケート結果、名寄徒然草

第 29 号の発行

発行日：2009 年 9 月 7 日
内　容：圃場見学会報告、名寄徒然草、全国フォーラム案内

6.　全国合鴨フォーラム（秋田県）参加者への補助

参加者:折坂、清水池、村田

事務局からの事業報告は以上の通りであり、決算書は次のページに示した。例年通り、総会・講演会と圃場見学会、アンケートの実施などの内容であった。

これらに対して質疑応答を行ったが、次のような内容であった。

木村篤：

積立金会計の用途は決まっているのか。

事務局：

未定だが、恐らく設立 20 周年式典の費用に充てることになる。

なお積立金は普通預金にて対応していたが、今年度より定期預金を利用することとする。その際は 15 万円のうち 10 万円預け入れる。なぜなら残り 5 万円は会の運転資金として必要な状況のため。

北海道合鴨水稲会 決算報告書

自2009年1月1日　至2009年12月31日

1. 一般会計　　単位：円

		予算	決算	備考
収入の部	当年度会費収入	108,000	72,000	3,000円×24名
	過年度会費収入		15,000	3,000円×3名+6,000円×1名
	学生会費収入	4,000	4,000	1,000円×4名
	雑収入		32,540	圃場見学会残金
	（実収入 小計）	(112,000)	(123,540)	
	前年度繰越	88,906	88,906	
	収入の部合計	200,906	212,446	
支出の部	世話人会交通費	15,000	20,300	1回開催
	役員会費	10,000	0	
	事務局手当	20,000	20,000	5,000円×4名
	（手当関連 小計）	(45,000)	(40,300)	
	「水かき通信」発送費	5,000	7,093	2回発行
	「水かき通信」印刷費	2,000	6,000	コピーカード(3,000円×2)
	圃場見学会案内発送費	1,600	1,995	切手代80円×21通＋封筒代
	その他文書通信費	1,600	3,580	総会案内・会費督促状用
	その他文書印刷費	1,000	599	総会案内・会費督促状用（封筒、切手、のり）
	（文書関連 小計）	(10,200)	(19,267)	
	アンケート印刷費	2,000	0	総会案内と同時発送のため
	アンケート発送費	1,800	0	
	アンケート返信費	1,600	1,680	
	（アンケート関連 小計）	(5,400)	(1,680)	
	総会・圃場見学会補助費	30,000	10,230	総会のみ補助
	会費払い込み手数料	2,100	1,800	
	総会運営費	15,000	12,620	総会講師料等
	全国大会参加補助費	60,000	60,000	全国合鴨フォーラム参加者への補助
	全国合鴨水稲会 会費	10,000	10,250	会費10,000円+支払い手数料
	雑費	3,000	3,923	事務局物品等
	実支出 計	181,700	160,070	
	予備費	19,206	0	
	支出の部合計	200,906	160,070	
次年度繰越			52,376	

2. 積立金について　　単位：円

	金額	備考
前年度積立金	150,000	
	(100,000)	三島名誉顧問からの寄付金（2006年2月）
	(50,000)	アイマトン様からの寄付金（2008年5月）
積立金　計	150,000	

質疑応答を経、以上の事務局の報告は満場一致により承認された。
続いて事務局より、事業計画と予算計画の提案が行われた。

2010 年度事業計画・予算計画の提案

1.　第 16 回総会の開催

日　時：2010 年 2 月 27 日（土）
場　所：丸加高原 伝習館（滝川市）
研修会：「子どもたちに伝えよう 食への関心―日本型食生活を中心として―」
　　講師：山際睦子氏（管理栄養士・社団法人北海道栄養士会副会長）

2.　圃場見学会の開催

予定日：2010 年 6 月頃
担　当：道南地区

3.　世話人会の開催

第 1 回（※開催済み）
日　時：2010 年 1 月 23 日（土）
場　所：北海道大学農学部 3 階　農業経済学科会議室
議　題：総会に向けて
　　全国合鴨水稲会世話人選出について

第 2 回
日　時：2010 年 3 月頃
場　所：北海道大学農学部 3 階　農業経済学科会議室
議　題：新代表世話人・全国合鴨水稲会世話人選出

4.　合鴨水稲同時作の実施状況に関するアンケート調査の実施（発送済み）

発送数:23 通
※第 16 回総会案内と同時に発送

5.　会報「水かき通信」の発行

第 30 号の発行
発行日：2010 年 4 月頃
内　容：第 16 回総会報告、合鴨水稲同時作の実施状況に関するアンケート結果

第 31 号の発行
発行日：2010 年 7 月頃
内　容：圃場見学会報告

これらに対しても質疑応答を行った。内容は次の通り。

高嶋浩一：

予算計画書によると、会費督促状の発送費が膨らんでいる。会費未納者の状況は如何か。

事務局：

一部にみられる。過去３年にさかのぼり、順次請求していく。

北海道合鴨水稲会　予算計画書

自2010年1月1日　至2010年12月31日

1．一般会計　　単位：円

		2009年予算	2010年予算	備考
収入の部	当年度会費収入	108,000	90,000	30人×3,000円
	過年度会費収入			
	学生会費収入	4,000	4,000	4人×1,000円
	雑収入			
	（実収入　小計）	(112,000)		
	前年度繰越	88,906	52,376	
	収入の部合計	200,906	146,376	
支出の部	世話人会交通費	15,000	40,000	本年度は2回開催予定
	役員会費	10,000	0	
	事務局手当	20,000	20,000	5,000円×4名
	（手当関連　小計）	(45,000)	(60,000)	
	「水かき通信」発送費	5,000		本年度は2回発行予定
	「水かき通信」印刷費	2,000		
	圃場見学会案内発送費	1,600	18,000	
	その他文書通信費	1,600		
	その他文書印刷費	1,000		
	（文書関連　小計）	(10,200)	(18,000)	※「文書印刷・発送費」に一本化
	アンケート印刷費	2,000	2,000	
	アンケート発送費	1,800	1,710	90円×19通
	アンケート返信費	1,600	1,520	80円×19通
	（アンケート関連　小計）	(5,400)	(5,230)	
	総会・圃場見学会補助費	30,000	20,000	
	会費払い込み手数料	2,100	3,600	30人×120円
	総会運営費	15,000	20,000	総会講師料等
	全国大会参加補助費	60,000	0	本年度は開催なしか
	全国合鴨水稲会　会費	10,000	10,250	会費10,000円+支払い手数料
	雑費	3,000	4,000	
	実支出　計	181,700	141,080	
	予備費	19,206	5,296	
	支出の部合計	200,906	146,376	
次年度繰越			0	

2．積立金について　　単位：円

	金額	備考
前年度積立金	150,000	
	(100,000)	三島名誉顧問からの寄付金（2006年2月）
	(50,000)	アイマトン様からの寄付金（2008年5月）
積立金　計	150,000	

以上のような議論を経て、事業計画・予算案について満場一致で承認された。

新役員と会員数について

本年度は世話人改選の年のため、事務局からの議案がすべて承認されたのち各地区代表から新世話人が発表された。

2010年度北海道合鴨水稲会　役員一覧

代表世話人		折坂 義一	
世話人	**（道北）**	佐竹 国広	粂田 実
	（道央）	折坂 義一	川本 隆幸
	（道南）	高嶋 浩一	築城 正行
監　　査		清水池 義治	（名寄市立大学　講師）
名誉顧問		三島 徳三	（元 名寄市立大学教授）
顧　　問		飯澤 理一郎	（北海道大学大学院農学研究院　教授）
事務局長		大原 睦生	（地方独立行政法人北海道立総合研究機構畜産試験場）
事 務 局		庄子 太郎	（北海道大学大学院農学院　博士後期課程）
		佐々木 稔基	（北海道大学大学院農学院　博士後期課程）
		山田 正紀	（北海道大学大学院農学院　博士前期課程）
		小板橋 正裕	（北海道大学大学院農学院　博士前期課程）

半数の方々が再任となった。

代表世話人は引き続き折坂氏が務め、更に全国合鴨水稲会北海道地区世話人も兼任することとなる。道北地区は前期と変わらず、佐竹・粂田体制。道央地区は折坂氏と、前期の吉野氏に代わり川本氏が着任。道南地区は大塚・諸戸両氏が退き、高嶋・築城の両氏が就いた。

また、監査には名寄市立大学講師で事務局 OB である清水池氏が着任した。

会員数については次の表に示す。議事として言及することはなかったが、補足として配布資料に掲載した。

2009年度会員数

2009年1月1日時点	36名	
2009年12月31日時点	35名	**（退会者1名、除名者0名）**

前年度に引き続き、会員数は微減傾向にある。設立 20 周年に向け会の規模拡大が望まれるところである。

その他

・全国合鴨水稲会北海道地区世話人であった浅野氏より、交代の要請があった。ついては全国世話人の選出方法について、北海道世話人会の意向を報告した。つまり、まず北海道世話人を選出し、そのメンバーの中から全国世話人を選出する、という方法をとるということである。この件について異議は出なかった。

・木村篤氏より、北海道合鴨水稲会の名簿を配付すべき、との意見があった。これについては早速事務局で対応することとした。

合鴨水稲同時作に関するアンケートの集計結果

小板橋　正裕・庄子太郎（事務局）

1．調査の概要

2010 年 1 月、総会案内に同封する形で、水稲を作付している農家である会員にアンケート票を送付した。各自で記入してもらったうえ、同封の返信用封筒に入れて送り返してもらう形式をとった。

アンケート調査の概要を示したのが表 1 である。アンケート発送数は 22 通、そのうち 13 名から回答があった（回収率 59%）。ただし、回答頂いた会員のうち 1 名は合鴨水稲同時作を実施せず、また今後も予定がないことから、今回の分析からは除外した。

表1　調査の概要

会員数	35 名	2010年1月1日現在
配布数	22 通	
回収数	13 通	2010年4月1日現在
回収率	59 %	
有効回答数	12 通	

注）回答農家のうち 1 戸は合鴨水稲同時作を実施しておらず、実施予定もない。そのため分析対象から

2．合鴨水稲同時作の実施状況

2009 年度に合鴨水稲同時作を実施した会員の地域分布を表 2 に示した。石狩・上川各支庁に 2 名ずつ、渡島支庁は 1 名、空知支庁 3 名、桧山支庁に 4 名と、上川から道南地方にかけて広範に分布している。

表2　合鴨水稲同時作実施者の地域分布

単位：戸

支庁	戸数
石狩	2
上川	2
空知	3
渡島	1
桧山	4
合計	12

表 3 は、2007 年から 2009 年までの合鴨水稲同時作の実施状況を示したものである。推移をみると全体として横ばい傾向にあるが、この傾向は前々回のアンケート実施時（2007 年）から続くものである。また合鴨水稲同時作を中止した農家（農家 c）も見られるが、2010 年度から再開するとのことである。

表3　合鴨水稲同時作の実施状況

単位：ha、%

農家記号	合鴨水稲同時作実施面積			09年度水稲作付面積	
	2007	2008	2009		うち合鴨同時作比率
a	0.1	0.1	0.1	9.5	1.1
b	1.3	1.3	1.3	7.7	16.9
c	1.0	0.0	0.0	14.0	0.0
d	1.0	0.6	0.6	4.1	14.8
e	1.6	1.6	1.6	15.0	10.7
f	3.5	3.5	3.8	13.6	27.7
g	0.8	0.8	0.8	4.0	20.0
h	0.6	0.6	0.6	2.4	25.0
i	1.8	1.8	1.8	20.1	9.0
j	1.2	1.2	1.2	8.3	14.5
k	2.0	2.0	2.0	8.0	25.0
l	1.5	1.0	1.0	13.9	7.2
合計	16.4	14.5	14.8	120.6	-
平均	1.37	1.21	1.23	10.0	14.3

また合鴨水稲同時作の比率をみると、全作付面積の 2～3 割という農家が多い。合鴨水稲同時作は大変な労力を伴うため大規模に実施できないということと、それでも合鴨水稲同時作を実施し続けることに意義を感じているという点を伺うことができる。

3．合鴨の流通経路

会員が合鴨ヒナをどこから導入しているのか、あるいは導入しようと計画しているかを示したのが表 4 である。

表4　合鴨ヒナの導入元

単位：戸、羽

導入元		2009年度実績		2010年度予定	
業者名	所在地	戸数	羽数	戸数	羽数
高橋人口孵化場	（大阪府）	8	675	8	845
原田孵化場	（熊本県）	2	534	2	530
日本有機薩摩鴨孵化場	（鹿児島県）	1	250	1	300
合計		11	1,459	11	1,675

注）農家iは2010年度実施予定なし、農家cは今年度から実施予定。ともに高橋人工孵化場からの導入であるため、表中では増減なし。

導入元は大阪府の高橋人工孵化場、熊本県の原田孵化場、そして鹿児島県の日本有機薩摩鴨孵化場の３ヶ所がある。高橋人工孵化場、原田孵化場がシェアを大きく二分していることがわかる。

ヒナを購入してから水田から引き上げるまでの鴨の羽数の推移を示したのが表５である。引き上げ時の残存率は 26%から 88%まで、大きくばらつきがある。

表６は、水田から引き上げた鴨をどのように処理しているのかを示したものである。全体のうち３割が無償で譲渡され、５割が販売されている。

表5　羽数の推移

単位：羽、%

農家記号	購入時	放飼開始時	引上げ時	放飼後残存率
a	34	31	30	88.2
b	120	100	80	66.7
d	62	62	50	80.6
e	100	85	36	36.0
f	500	400	160	32.0
g	80	78	40	50.0
h	100	72	48	48.0
i	185	170	78	42.2
j	103	102	67	65.0
k	250	230	65	26.0
l	110	105	76	69.1
合計	1,644	1,435	730	－
平均	149.5	130.5	66.4	50.2

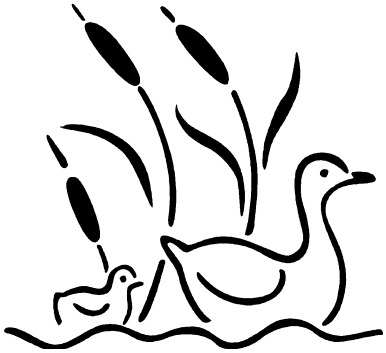
注）農家cは今年度より導入予定のため実績なし。よって表からは除外した。

表6　水田から引き上げた鴨の処理方法

単位：羽、%

農家記号	引上げ羽数	処理方法								贈答先	販売先
		自家消費		無償譲渡		販売		在庫・保管		その他			
a	30 (100)			15	(50)	15	(50)					個人（栗沢町）	個人（岩見沢市）
b	80 (100)			80	(100)							そば屋（せたな町）	－
d	50 (100)	10	(20)	40	(80)							個人（八雲町）	－
e	36 (100)			36	(100)							個人（当別町）	－
f	160 (100)					160	(100)					－	精肉業者（滝川市）
g	40 (100)	5	(13)	10	(25)	25	(63)					個人	レストラン（七飯町）、個人
h	48 (100)					48	(100)					－	レストラン
i	78 (100)	2	(3)	1	(1)	74	(95)			1	(1)	親戚	個人（北広島市）
j	67 (100)			67	(100)							個人（八雲町）	－
k	65 (100)	3	(5)			62	(95)					－	精肉業者（滝川市）、個人
l	76 (100)					23	(30)	53	(70)			－	温泉施設（愛別町）、個人
合計	730 (100)	20	(3)	249	(34)	407	(56)	53	(7)	1	(0)		

註1）（）内は引上げ羽数に対する比率である。



事務局からのお知らせ

●次回の全国フォーラムについて

今回は第 21 回の全国合鴨フォーラムですが、同時に会設立 20 周年を迎えました。それを記念して「全国合鴨水稲会 20 周年記念フォーラム」が 7 月 31 日・８月 1 日の２日間、福岡県にて行われます。つきましては全国事務局発行のチラシを同封いたしました。（残念ながら本会から補助金は出せませんが）興味のある方はどうぞ事務局へお知らせください。

●年会費の早期納入にご協力ください

本会は会員の皆様からの会費によって運営されています。円滑な運営のために、早期の納入をお願いしております。年会費は 3,000 円です。

納入先：北海道合鴨水稲会

郵便口座番号　０２７００－３－３８２４１

編集後記

まずは水かき通信の発行遅延をお詫びせねばなりません。本来なら４月中には発行すべきところを申し訳ありませんでした。完全なる事務局の怠惰によるものです。▼総会報告を執筆しながら思い出したのは、研修会のとき山際さんがお話し下さった、食習慣のこと。最近札幌は暑い日が続き、私の食欲は減衰モード。お昼ごはん代わりのアイスクリームを片手に、「まごわやさしい」（まめ・ごま・わかめ・やさい・さかな・しいたけ・いもを意識して食べよう！）を思い出し、深く反省する次第です。（小板橋）

北海道合鴨水稲会　水かき通信　第 30 号
2010 年 6 月 29 日発行

（連絡先）北海道合鴨水稲会　事務局
〒060-8589　札幌市北区北 9 条西 9 丁目
北海道大学大学院農学院
共生農業資源経済学講座　食料農業市場学分野内

庄子太郎・佐々木稔基・山田正紀・小板橋正裕
TEL：011－706－3858
FAX：011－706－2470
e-mail：shoji-t@agecon.agr.hokudai.ac.jp
HP：http://hokkaidoriceduckfarming.web.fc2.com/